

佐須の里山観察

2015年度 第1回 雑木林ボランティア講座



田んぼの学校校長から調布での米づくりについて聞く

佐須地域をアピールする掲示板



井戸を掘って佐須用水へ



神明宮の木陰でこの辺りの歴史を聞く



田植えの終わった田んぼを眺めながらカニ山へ



国分寺崖線から湧き出した水は（神代農場南端から）佐須の田んぼへ流れる



ホタルのエサとして知られるカワナ

ネギボウズの花にはモンシロチョウが…

スズメバチが木の洞を覗いて巣作り中？

発見 カニ山でゼンマイ

クワの実が色づいてきた

5月30日（土）市民プラザあくろす（国領）にて開講式。「調布の雑木林の過去と現状」について小林講師のお話を聞いた後、午後は説明を聞きながら実際に観察。野川の細田橋を渡り、佐須用水に沿って少し住宅地を歩くと景色は一変する。

ここは都心から西では一番始めに田んぼに出会える場所。ほりしている。田んぼに使う用水井戸を設置した

井戸したり、農家の協力を得て、市民が協働で里山の保全に取り組む、生物多様性にも貢献する貴重な景観を守っていききたい。

花の履歴書 32

戸部英貞 (絵・文)

ヒメジョオン (姫女苑) キク科



Erigeron annuus Pers.

北アメリカ原産のこの仲間
は、近年たくさん帰化してい
るが、どれも乾燥地帯を原産
地とし、その中でヒメジョオ
ンは明治維新前に渡来が記録
されている。最初は海外から
物資の陸揚げされる港湾付近
で繁殖し、当初は「柳葉姫菊」
の和名が付けられ、その後鉄
道の発達とともに日本全国の
市街地から農村部に広がり「鉄
道草」の名で呼ばれ、最近で
は道路網の発達により山岳地
帯にまで入り込んでいる。

以前、一面にニッコウキスゲ
が咲く中に、道路沿いに白い花
が点々と咲いている霧ヶ峰高原
の観光ポスターを見たが、それ
はすべてヒメジョオンの花だっ
た。霧ヶ峰高原は海拔一千メー
トルを超える場所で、冠毛があ
る種子でも、簡単に上がってゆ
ける場所ではない。しかし、ビー
ナスラインと呼ばれる観光道路
ができ、夏になれば大勢の人が
バスや乗用車で訪れてくる。
タイヤや人々の靴や衣服に付
着した種子が運ばれ芽生えたも
のだが、初期のころは目に留ま
ると引き抜いたが、現在では道
路脇だけでなく草原一帯に入り
込んでしまひ手の施しようがな
くなっている。

外国との交流が盛んになり、
道路網が発達すると、予期せぬ
場所にまで外来植物が侵入し本
来の生態系が壊されてしまう恐
れがある。要注意外来植物。

今年のキンラン・ギンラン

「若葉の森」から

昨年4月下旬、「若葉の森」の一面で10

株以上のササバギンランの花が見つかり
ました(24号既報)。長らく放置された林
で冬に間伐・下刈りが行われ、中に入れ
るようになったことによる、うれしい発
見でした。ただ、林床が急に明るくなっ
たことが、翌シーズン以降どう影響する
のか、少し心配でした。

今年はササバギンランがほぼ半減しま
した。同種が比較的暗い環境を好むこと
が関係していると思われます。それでも
昨年、コンクリート瓦礫の中に咲いた1
株は、今年も同じ場所で頑張っていました。
この林の比較的明るい場所にはキン
ランも咲きますが、こちらは去年並みで
した。

キンランについては、別の林で悲しい
出来事が。人目の届きにくい一画で、大
きな株がいくつも掘り取られたのです。
最近、人気の「見る知る歩く せんがわ
地図」(商店街だけでなく森も紹介)など
を手に「若葉の森」を訪ねる人が増えて

いると感じます。しかし、知らせること
がリスクを高めているかもしれない。悩
ましい問題です。

明るい話題もあります。地元の若葉町
自治会が「若葉の森」の坂道2本を掃除
する「若葉おそうじ隊」の活動が定着。
掃いた落葉はすべて森へ戻すなど、森の
いきものを意識した活動になってきてい
ます。5月末にあった自治会総会でも、
キンラン・ギンランについて「昔は普通
に見られたが、今では絶滅危惧種。移植
は不可能。大切にしましょう」と行き届
いた内容の報告がありました。地域の皆
さんの森への関心・愛着が、森の生きも
のを守る一歩の力だと思っています。

(大村哲夫)



「入間の樹林」では ブチ違い(ちょっと違うぞ) 観察

◆タチツボスミレ(地上
茎が有り托葉の切れ込み
がクシの歯状)

◆ツボスミレ(地上茎が
有り、托葉の切れ込みは
ない)

◆アカネスミレ(地上茎
は無く葉は束生)



タチツボスミレは
こんな感じ

◆アラカシ(葉の裏
面は灰褐色で絹毛あ
り、葉縁の上半部に
鋸歯がある)

◆シラカシ(葉の裏
表とも無毛)



ちょうふの崖線樹林を守る

入間・樹林の会

4月19日(日) 曇り 参加者14名

初参加者を含め全員で方形枠調査を実施した。始めに根本さんから方形枠調査方法と意義について、区域内の植生の変化と外環境の変化による植生変化などを比較していくことなどの話があった。ニリンソウの花を確認し、午後からはNTT裏の雑木林の観察会を実施し手入れされた雑木林の植生について学んだ。

5月17日(日) 晴れ 参加者12名

気温25度湿度30%の爽やかな作業日和、二手に分かれ男性陣7人はツバキの森のスタッキングの山の片づけですっきり。女性陣5人は三角地の下草刈り。最も日当たりがよいのでヤブマオ、クサギ、ヒメコウソなど繁茂しており、最後に男性陣の手も借りて刈り終えた。ヤブマオの葉の裏にはフクラスズメの毛虫が。年3回の草刈りが必要な三角地に「ヤギを飼いたい!」と痛感している。(安部)



方形枠調査



作業前三角地



ニリンソウ



作業後三角地

カニ山の会

4月11日(土) 雨 参加者5名

朝のうち雨のため作業中止。ただし様子見に集まった人達で東樹林の見回りをした。東隣の空き地にもパイオニアツリーと言われるアカメガシワやクサギが伸び始めている。

5月9日(土) 晴れ 参加者8名

キャンプ場北側(ドングリの森)であつたという間にびた雑草(ハルジオンが目立つ)の草刈り。この時期の雑草の生長を目の当たりにし、今後は午後作業も考慮することとした。昨年、人が通る場所できれいに咲いていたホタルブクロは苗圃内に移植し、冬の間に移植し損なったケンポナシはいつでも植え替えができるように根回しを行った。

また東樹林北西角の通路階段の踏木が紛失していたため1段だけ補修。(残り3段)ストックしていた階段の材料が無くなってしまったのは子ども達の遊び道具になったのだろうか?
(活動報告より)



階段修理



根回し(廻りを掘って根切り)

前回から気になっていた植物
どうやらヤマユリ。

若葉の森3・1会

4月22日(水) 晴れ 参加者6名

定例日雨天中止による臨時作業日。第2緑地通路際の竹柵に沿って市提供のロープ柵設置。キンラン・ギンランの観察。ササ刈り。通路の落葉掻き。ゴミ拾い。



ロープ柵設置



ギンラン



ギンラン

5月3日(日) 晴れ 参加者6名

今年も見事に咲いてくれたキンラン・ギンランの観察。キンラン盗掘は残念。市が伐採した枝木を使用して階段とコンポスト柵補修。落葉かき。ゴミ拾い。



コンポスト柵補修



補修後

◆若葉の森で歌う会(第9回)

5月17日(日) 第1緑地で開催。参加者約50名。歌声が森に響き、楽器演奏に聴き入り、子どもたちは人形劇に大喜び。六別坂沿いの展示に足を止める人も。(NOK)



歌う会

人形劇と子ども

森のギャラリー

調布環境モニター

5月23日(土) 晴れ 参加者14名

今年度第一回目の環境モニターは、調布や多摩川の自然を中心とした一時間ほどの室内講義。市内で確認されているという特定外来生物に指定された植物はアレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクの4種であることなども学んだ。

その後、河川敷に移動して植物観察。良いのか悪いのか4種の特定外来生物全てを見つけることができた。他にもメリケンガヤツリ、マメゲンバイナズナ、アレチハナガサ、コゴメバオトギリ、ナガミヒナゲシなど帰化植物が目立った。その反面、環境省指定準絶滅危惧のカワヂシャなど貴重な植物もあり、調布の自然環境をいかに守っていくのか、モニター活動を通して考えていきたいと思った。

(環境モニターメンバー 北谷)



オオカワヂシャ



アレチハナガサ



コゴメバオトギリ

ちょうふの自然 みつけた！

メールでいただいた情報です

●4/15 チャドクガが発生しましたご注意ください。ツバキ、サザンカ、チャナツバキ、ヒメシヤラなどツバキ科の植物を食草とするチャドクガは前年の秋に葉の裏に黄色い綿状の卵塊を産み付け、春に孵化します。孵化した幼虫はしばらく卵塊の周りですごし、集団で移動します。この時が退治するチャンスです。付着している葉をもぎ取り、ビニール袋に入れ、ごみと一緒に処分します。(HT)



孵化した後の綿毛



1令幼虫の集団

●4/20 つつじヶ丘駅北口にツバメが巣作り。駅があたらしくなっただけから初めて。戻ってきてくれてありがと！(MS)

●4/27 猛禽類(鷹の仲間)のチョウゲンボウが市内で一番賑やかな調布駅北口前のパルコの文字盤の裏で営巣中。選挙カーの大きな怒鳴り声にもめげず、それにも負けないような大きな鳴き声でキイキイと鳴きながらロータリーの上を旋回してから文字盤の裏に飛び込む姿が観察されます。(HT)

▼29日、行ってみましたが、それらしきところに、網がかぶせてありました。巣をとり除かれたのでしょうか？(ME)

6月6日(土)

「あなたから始まる地球の未来」

調布市環境フェアが開催されました！

明け方まで降り続いた雨もやみ上天気、ゴーヤ配布担当は9時から準備作業開始。

今年で5回目の配布になる緑のカーテンは窓から差し込む太陽エネルギーをカット、また葉っぱからの水分が蒸発することで廻りの熱を奪う蒸散効果もあり、2〜3度は室内温度を抑えることが出来る、と言われていきます。けれどなんととってもゴーヤカーテンの魅力は収穫し、美味しく食べられること。そこが市民のニーズに合ったのか、配布開始10時には200人近くの行列ができて、列が途切れることがありませんでした。12時40分、400セットを配布終了。

また「ちょうふ環境市民会議」ブースでは丸太切り体験コーナーと野草苗やエコタワシなどの物品販売を行いました。丸太切りでは、子供でも楽に切れるように少し細め(直径10cm程度)の杉の丸太を用意、親子連れを中心に楽しんで参加していました。(環境市民会議環境フェア担当)



丸太切りにチャレンジしました



美味しく、楽しくエコライフ！

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

●6/21(日) 9:30〜12:30
●7/19(日) 9:30〜12:30

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

●6/13(土) 10:00〜12:00
●7/11(土) 10:00〜15:00

原則として奇数月は并当持参で午後まで作業を行います。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●6/14(日) 9:30〜12:00
●7/12(日) 9:30〜12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●6/7(日) 9:30〜12:00
●7/5(日) 9:30〜12:00

先の4団体の保全活動は「調布市との協働」で行っています。
問・緑と公園課 042-481-7083



市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋(布田)、ニワコヤ(仙川)、ウェアハウスガーデン(柴崎)など。置き場所&応援カンパ募集中です！

※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載しています◆